（別紙4）　　平成　**元**　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2775003151		
法人名	有限会社　さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ		
所在地	東大阪市加納2丁目12番7号		
自己評価作成日	令和元年8月26日	評価結果市町村受理日	令和元年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2775003151-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　FGビル大阪　4階
訪問調査日	令和元年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

さざなみでは入居者様お一人おひとりの人格を尊重し、毎日を楽しく明るく笑い声のある施設をめざしてケアを支援しています。ご自分の家にいるような家庭的な雰囲気を感じられるよう努めています。看護師、主治医、訪問歯科、薬局と常に連携していつでも細やかな健康管理ができますよう心がけています。一番の楽しみである食事は厨房スタッフが毎日スーパーに買出しに出かけ、旬のものを手作りして提供しています。入居者様にはできる範囲のお手伝いをお願いして、存在や生きがいを感じていただくように支援しています。また地域の行事や集まりには積極的に参加して地域の方たちと触れ合うよう、そしていつまでもお元気で過ごしていただくよう職員一人一人が親身になって関わり、サービスの質の向上を目指し支援しています。

8年ぶりの訪問である。近所に引越した新しい場所は加納西公園、加納自治会館の斜め前の場所で、獅子舞と天狗さんで知られる宇波神社も近くにあり、毎年の秋祭りや保存会の繰り出す「加納だんじり」は利用者の大きな楽しみとなっている。8年前よりも一層「利用者が地域と共に暮らす」面が特色となっている。勤務年数の長い馴染みの職員の手料理と9名が共同生活する丁度良い（狭くもなく広すぎることもない）共用空間の中で、ゆったりとした落ち着いた雰囲気の事業所となっている。1階部分には「さざなみクリニック」（8年前には無かった）があり医療面についても安心感が増えている。2ヶ月に1回開催される運営推進会議には地域の代表者や近隣のグループホームの職員（多い時には5～6事業所）から出席があり、地域交流、認知症介護の情報交換など幅広い意見交換が行われている・

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ワッハハ・明るく笑えば広がる笑顔」事業所理念のもと職員は入居者様と接している。朝礼では唱和し、勤務の中で共有しながら、常に理念の実践に心がけている。	複数のグループホームを運営する法人の共通理念があるが、当事業所独自の理念がユニークである。「ワッハッハ、明るく笑えば広がる笑顔」が大きく掲示され、利用者も職員と一緒に唱和に参加している。事業所の理念であり利用者の暮らしのスローガンでもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	のどかな住宅街で散歩時など、ご挨拶をしたりして極普通にお付き合いさせていただいています。自治会にも入っており、出来る限り地域の行事には入居者様の負担にならないよう参加させていただけるよう努めています。	すぐ近くに加納西公園、加納自治会館、宇波神社があり、地域の行事への参加、地域からの事業所への支援、など地域との交流が日常の生活と自然に結びついている。保育園や幼稚園児たちとのふれあいも、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では地域の老人会の方や他の事業所と情報交換をし、イベントに参加したりして、認知症の方への理解をしていただけるよう、助言をいただけるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月に1回行い地域包括支援センター、近隣グループホーム、ご家族様、入居者様の各々の代表の方に参加して頂き、行事報告や事故報告 サービスなどの様々な報告を行い、意見交換などをして地域に開かれたサービスで質の向上に努めます。	以前より地域の有力な代表者の継続的な出席が得られ、地域との情報交換と交流、事業所の情報公開、近隣のグループホームとの連絡、また家族や利用者の参加で、実りのある運営推進会議が実現している。また事業所は地域との交流を利用者サービスの向上に繋げている。	地域や同業者など幅広い関係者の集まりの会となっているが、もし、一階のクリニックの医師が都合のつくときは会議に参加してもらい、高齢者医療面からの話題の提供も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、何かあればすぐに相談 にのっていただけるよう連絡をとり、協力関係を築くよう取り組んでいます。丁寧に対応される。	東大阪市の担当課との情報交換、所轄の地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて協力関係を気づいている。また利用者個々の事案については東大阪市の夫々の担当する部署ときめ細かく相談・報告を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束・事故委員会の報告をだしてもらい、職員会議等で話し合っています。 自己研修として常に取り組んでいます。	身体拘束委員会を組織して、定期的に会議を開催し、個々の利用者の状態に応じた支援方法について確認を行っている。帰宅願望や外出意向を示す利用者については、職員による見守りを徹底している。居室・リビング・トイレなどの位置関係では職員による見守りの死角になる箇所は少ない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入居者の日常の様子を常に見守り、観察しています。異常があればすぐに報告する形をとっています。（打ち身・擦過傷なども）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は内部研修等で制度について学習し、知識を深め、必要性が生じたときは関係機関と連携をとり、活用していくことが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に、重要事項や契約書の中身を 入居者様や家族様に説明し、わかりにくかったり、不安な点や疑問点を尋ねている。納得を得た上で手続きしていただけるように努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など下駄箱のところに意見箱をおいて意見要望の収集の機会を設けている。また契約時のアンケートなどからも意見、要望を集める工夫をしている。	「グループホームさざなみ加納通信」を毎月発行して利用者の暮らしの様子を知らせている。また、居室担当の職員が手書き文章にて、本人の近況や会話内容を伝えている。家族の訪問時には本人の体調や暮らしぶりを詳しく報告し、必要によりケアプランの内容について説明を行っている。	職員は毎月の家族への近況報告を手書きのお手紙書いていて、本人の暮らしぶりが良くわかる。職員の氏名はフルネームで書いた方が、家族から担当している職員との距離感が少し変化すると思う。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場や個人の提案を聴く機会を持つことによって、職員一人ひとりの意見を大切に出された案件を、誠実に反映できる体制を作るよう心がけている。	1ユニットの少人数の職員体制の中で、職員が互いに協力し合う関係になっている。管理者は働きやすい職場環境づくりに努めている。内外の研修受講機会にも配慮をしている。職員ミーティングも定期的の行って、利用者状況や行事計画について情報共有の徹底を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って仕事ができるような体制を目指し実践している。職員一人ひとりの希望にあった勤務体制に沿えるように努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村の研修には積極的に参加している。また施設内でも自主的にテーマを決めて研修を行っている。研修費の補助制度や資格などを取得しやすい環境を作り、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会の研修の参加や近隣の運営推進会議に互いに参加し合うことによって、サービスの質の向上に向けて取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に馴染まれるよう常に職員が働きかけ、傾聴し寄り添って安心して過ごされるように取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談されてきた困り事や悩みを家族様の立場にたって、しっかりと受け止め安心していただけるよう連絡を満つにして対応するようにつとめる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、家族様の思いをしっかりと汲み取ってどのような支援が必要か、職員間で話し合って支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は私たちの大先輩である。人格を尊重して学ばせて頂いている気持ちを忘れずにひとつの家族として支えあい、助けあって日々過ごして行くようにつとめる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られたときは居室で過ごして頂き、のちにフロアで話されています。その際に職員からの情報も聞かれたりして、日常の様子を知って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近場の入居者様がおられるため、近所の方やお友達が来られ、いままでの付き合いを続けられています。再度お越しいただくよう声掛けし、継続支援に努める。	東大阪市で長年暮らしてきた利用者がほとんどであるために、入居後も以前の暮らしの時の知り合い、人間関係、馴染みの店や近所関係との継続に機会を見つけては支援するように努めている。加納地区には暮らしに密着したお祭りなどの文化資産の保存が熱心であり、事業所としても利用者が以前からの馴染みの町内行事は積極に介護活動に活用している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ一人孤立しないように、職員も間に入ることにより、会話が弾むように支援しています。利用者様同士が常に和み、楽しんで頂けるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用がなくなっても、ご近所の方とは会う機会があり、お互いの近況を話し、いつでも相談にきていただけるように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者様お一人おひとりの思いや意向をくみとり、出来るだけ希望に沿えるように、また地域の行事にも声掛けして参加できるように支援している。	本人が入所するまでの生活歴や趣味や嗜好、得意なこと、嫌いな事などを把握して、本人との日常での関りから「どんな暮らしがしたいか？」を推察し、職員同士でも情報を交換し合って、本人の支援方法や過ごし方を決定している。朝起床して利用者がその日に着る服などは自分で決めてもらうように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの生活歴を家族様やご本人様よりお聞きして、これまで培われてきた家事やできることを感覚として残していかれるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの一日の過ごし方は様々ですが、居室やフロアーで思い思いに過ごされています。気づいたことは職員間や職員会議にて共有し検討しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や職員の間で気づいた事をモニタリングをし、職員会議で検討して介護計画に反映して作成している。	介護計画書に沿った支援を実施した介護記録を基に、利用者の状況変化を把握し、職員ミーティングにて個別に職員が情報交換して見直しの必要性を判断している。家族の意向、かかりつけ医の意見を参考にして新たな介護計画書を計画担当者が中心となって作成し、家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を個人ごとに生活記録に記入し、職員間で情報共有行う。何か問題が発生したときは意見を出し合い、対応、対処方法を検討し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場その時のニーズに応じて、他の社会資源と連携して取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、老人会、他のグループホームの方々と協力しながら地域の行事などにも積極的に参加し、安全で豊かな毎日が過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がおられるときは協力し、すぐに医療が受けられるよう関係を築いている。また協力医療機関とも連携をとりながら定期的に、変化があった時もすぐに連絡をとり、適切な医療を受けられるように支援している。	同じ建物（さざなみ壱番館）の1階に「さざなみクリニック」が協力医療機関で担当医師は法人の事業所を巡回診療しているがすぐに連絡が取れる距離である。月に2回の訪問診療であるが、併設の有料老人ホームへの診療もあり、週に1回は医師との相談が可能な体制である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日頃の健康管理や様子観察などで、入居者様の細かな変化や気づきを看護師につたえ、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設からの情報はもちろんのことスムーズな退院が出来るように、面会時などに病院関係者と情報交換や相談などに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に説明している。具体的なことについてはなるべく早い時期に家族様と話し合いをして、協力医療機関や看護師との連携によって家族様に安心して頂いている。	入所の段階で家族に対して重度化や終末期に対する事業所の対応について説明している。重篤の状態に至った時点でかかりつけ医から家族に対して状況が説明され、家族の意向を確認している。事業所での看取りを家族が希望すれば事業所として意向に沿った対応を行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として常に急変時の対応や事故発生時の対応について研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会い指導と自施設のみと年2回行っている。地域の人達とも協力体制がとれるよう日頃努めている。	通報装置、消火設備、避難路の確保は十分整備されている。避難訓練は消防署の協力を得て年2回実施されている。災害時の近隣・地域の支援及び協力は地域との良好な関係から期待できる。避難場所（公園・学校）が近いのも安心感がある。	利用者のADL状況に応じた避難誘導方法（歩行、車椅子、介助の仕方など）について、職員への意識付けを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとりお一人の人格を尊重し、尊厳と権利を守ることを基本にしてプライバシーも尊重した言葉 かけを心がけている。常に認知症についての研修もおこなっており、コミニュケーションの取り方など話し合っている。	利用者一人ひとりの生き方。人生に敬意を払った対応が行われている。日本語での意思伝達が難しい利用者との会話はゆっくりと、静かに、耳元で話しかける工夫が行われていた。個人情報の取り扱いに関しても施錠するなどの徹底がされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人さまの思っていることや意見などを引き出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人おひとりのその人らしい生活が 送れるように、個人の気持ちや体調の変化を見届けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについては、その人らしさ の思いを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みや力を活かして、入居者様と職員が配膳や食事、後片付けを一緒になって行っている。	食事は職員の手づくりが提供されている。職員んも一緒に食事している。誕生会などの場合は、食べたい料理を聞き、準備などにも参加を促して食事作りを楽しむ工夫も行われている、利用者は自分ペースで食事をし、居室で食事する利用者には介助を行っている。食事に関しては8年前の訪問時と変わっていない。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をその都度記入し、把握して確保できるようにまた状態に合わせて適切に対応出来るように工夫して提供している。食事が取りにくい場合は医療機関と連携して栄養が取れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは利用者様に合わせた声掛けをし、介助している。訪問歯科による週1回の口腔ケアを実施しており、口腔体操や治療など、協力体制のもと行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チエックを確認しながら、プライバシーに配慮した声掛けを実践。出来るだけトイレで排泄したいという気持ちをおもんじて、早めの声掛け誘導に努めている。	自立したトイレでの排泄習慣づくりを目指して、一人ひとりの排泄の特徴を記録を取ることで確認し、利用者の様子からタイミングを見計らった声掛けを行って誘導している。シフト交代時は利用者の排泄の状況を確実にシフトに入る職員に伝達して、排泄コントロールの徹底を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するために毎日の排便を確認し、出来るだけスムーズに排泄できるよう水分や食事量に注意している。運動不足も影響するため、一緒にフロア内を歩いたりして体を動かして頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日など決めさせて頂いていますが、利用者様が拒否されたりした場合は無理強いせずに日を変えたりする。気持ちよく入浴されることが一番のくつろぎになるのでそのように支援している。	あらかじめ入浴予定日を週に2回と決めているが、本人の体調、気分や拒否がある場合もあり、柔軟に対応している。いやいや入浴する、無理やり入浴することが無いように気を付けている。介助する職員との会話を楽しみながら入浴してもらえるように心がけている。職員にとっても本人の希望を聞く機会とも捉えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりお一人の生活習慣やその日の様子を見ながら、ゆっくりと安心して休まれるように心がけている。その日の状態はどんな具合だったか、かえりみて記録することも大事。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬について理解しており、服薬については何重にもチエックして確認している。症状の変化については看護師にすぐ連絡し主治医の指示をうけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のダンスやカラオケなど、少しでも張り合いのある生活が送れるように、行事として花見やひなまつりなど多彩に取り入れて満足していただくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様お一人おひとりの希望に出来るだけ合わせられるよう買い物や散歩などの外出支援を行っている。季節の行事として夏まつりや山車など積極に出向いて地域の方達と触れ合っている。	すぐ近くの緑豊かな加納西公園がある、買い物の外出も行われている。この辺りは地域行事も多く、夏祭り、地車（加納だんじり）見物は毎年欠かせない行事である。加納小学校も近くで行事への参加しやすい距離である。職員は利用者の体調を考慮しながら、出来るだけ体を動かす支援を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの希望を受け止めて、その方に応じたお金の使い方が出来るように、わずかでも支援している。散歩時コンビニなど。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話したり、また家族様からかかってきた際は本人様に変わっていただいたりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やクロスは落ち着いた優しい雰囲気にしており、壁かざり、スナップ写真など展示して利用者様に常にみて頂ける目の高さに展示している。	リビング兼食堂を中心に各居室があり、反対側にキッチン、浴室が配置されたレイアウトであるために、部屋に居る利用者もリビングの利用者や職員の話し声が聞こえる。キッチンの料理のニオイや包丁の音も聞こえる家庭的な暮らしの距離感がある。大型テレビの前のソファに座って、ビデオを見ながら体操を行っている様子も拝見できた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にありのままに過ごしていただけるようフロアのソファを動かし、セッチングして仲良くお話がしやすいように工夫する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある家具などを置いて、居心地よく安心して過ごして頂くように配慮する。	居室は清掃が行き届き、清潔に維持されている。家族に協力をお願いし、馴染みの家具や写真などを持ってきてもらい、本人が安心して過ごせる様に工夫されている。家族が書いた「書」や「水墨画牡丹」が飾られた部屋の利用者は、家族が何時も側に居ると感じさせる安心感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの動き出せる能力やわかる力を活かし、自立して過ごしていただけるように支援している。施設内での行事には無理のない範囲で参加して頂いている。		